

みみよい

なお知らせ！

第 40 号

平成 29 年 7 月 15 日発行

佐賀県聴覚障害者
サポートセンターだより

みみの記念日 3月3日耳の日 6月6日補聴器の日 9月9日人工内耳



九州北部豪雨-有明海まで流木等の漂流物

7月4日の台風3号は被害なく通過したが、翌日、学生ボランティア講座の日に15時頃「線状降水帯」が鳥栖市で100m/hを超す雨、さらに福岡県朝倉市、大分県日田市周辺で記録的な豪雨を降らせた。7月12日までの累計は朝倉市で640mm。この豪雨で山地崩落、濁流、土砂災害が相次ぎ死者27人、不明約20人、避難者1200人超と大災害をもたらしている。東与賀町の干拓公園はじめ有明海には流木、角材、大型の漂流物が見受けられる。(7/12撮影)



聴覚障害者災害時安否確認システム << 事前登録開始 >>

聴覚障害者・情報支援者の登録が6月から始まり7月12日現在で聴覚障害者76名、情報支援者50名が登録されました。7月からは佐賀市在住の聴覚障害者について民生委員児童委員の協力を得て登録することとしています。全体の役員会、会長会の了承を得て26地区協議会でそれぞれシステムについて丁寧な説明や質疑を行っています。システムラボラトリー(株)により7月下旬からシステムのテストを繰り返して災害に備えることとしています。

聴覚障害者雇用企業情報交換会を立ち上げ

朝日新聞中島隆編集委員の講演会(5月19日)を契機として、聴覚障害者雇用企業の情報交換会が立ち上がり、7月7日に第1回の交換会を行いました。参加企業は、製造業等8社のうち5社が出席されました。それぞれの企業から雇用状況や職種、問題点や悩みが発表され、意見交換を行いました。

- ・ハローワークの紹介で雇用したが、どんな人柄なのか分かるサポートがあると雇いやすい。
- ・ろう学校の生徒が減少しており、雇いたいを紹介してもらえない。
- ・「分かった」と言われ、作業を始めると異なる手順でされるなどすれ違うことがある。
- ・採用時にコミュニケーション全般の能力をみている。受け身になっている人が多い。覇気を持って聞きたいこと、知りたいことは積極的に持ってきてほしい。

などの意見が出され、課題解決へのヒントがありました。次回は11月頃予定しています。

学生ボランティア講座 修了

情報支援の学生ボランティア講座が6月14日から始まり7月12日に全5回の講座が終了しました。【手話31名】【要約筆記1名】【字幕4名】のセンター開設以来最も多い計36名が修了しました。聴覚障害(者)への理解とともに、手話、要約筆記、字幕制作の情報支援について学びました。



シリーズ補聴器 加齢性難聴と認知症

3月に放送されたNHK「きょうの健康」で、「加齢性難聴」の話題がとりあげられていました。その中で、加齢性難聴を放置しておくと認知症の引き金になるという話がありました。

認知症テストを「難聴のある補聴器を使っている人」と、「難聴があっても補聴器を使っていない人」に分けて行ったところ、補聴器を使っている人は正常とあまり成績が変わらなかったが、補聴器を使っていない人は正常に比べて明らかに認知症テストの結果が悪かったという結果があるとのことでした。加齢性難聴に早期から対応することによって、認知症の予防にもつながると放送されていました。

最近の研究では難聴をそのままにした場合、健聴者に比べて、軽度難聴が約2倍、中度難聴が約4倍、高度難聴が約5倍も認知症になるリスクが高いという結果も出ています。(出典:Lin et al.(2011) Compared with normal hearing increased risk of dementia.)

「聞こえにくい」をそのままにした場合、考えられるのはコミュニケーションの減少です。言葉が聞き取りにくい、会話がしにくい。大きな声で話さないといけぬ。本人にとっても周囲の人にとってもそれはストレスになる可能性があります。そのことを面倒だと思つと無意識に会話を避けてしまいます。その結果、人間関係の悪化や外出が減ってしまうなど、「コミュニケーションの減少」を招く悪循環が「脳への刺激の減少」につながり、認知症を発症するリスクが高まると言われています。



※聞こえにくい状態を放置すると必ずしも認知症を発症するわけではありません。(ワイデックス社の認知症と聞こえ編より)

岩永補聴器店 代表取締役 岩永 行弘

三瀬 聴こえの相談 6/21

予約枠以上の方が相談に来られました。相談後には「センターでもっと詳しい測定をしたい」「補聴器の試聴をしたい」との希望がありました。予約が多かったため、8月23日(水)と9月13日(水)にも実施します。
※相談は予約制です。



センターでは季節毎にテーマを決めて写真コンテストを行っています。次回テーマは「空のある景色」「夏本番」で、8月20日(日)締め切り。県内の聴覚障害者と情報支援者のみ応募対象です。

祝 第32回全国聴覚障害者写真コンテスト特選・入選

佐賀県から課題写真部門に応募した平方由佳里さんと黒髪育美さんがそれぞれ入選しました。

★ 特選 福岡市教育長賞「この手で未来へつなごう」(平方)

★ 入選 「ねえ、バルーンの手話教えて」(黒髪)

【佐賀県障害者文化芸術作品展の写真部門】

写真を専門にされている方に審査してほしいと要望を出していたことが認められ、今回から専門家の審査・評価を頂けます。



きこえのセミナー開催 7/11

池田マサキ氏による講演会を開催しました。参加者は34名で、講演後は終了時間を超える質問が出ていました。また、終了後に多数の方が次回相談の予約をされました。(写真左)



みみサポーター養成講座 修了式 6/18

全3回で実施した講座が終了しました。7名の方が受講し、修了生は4名でした。

聴覚障害者へ必要なサポートについて意見を交わし、難聴疑似体験や補聴援助システムの体験なども交えた講座でした。今後、各々の職場での活用を期待しています。(写真右)



佐賀みみサポ写真コンテスト

2017 Summer (夏) 結果発表 7/9

今回は「春らんまん」15作品、「新〇〇」11作品、計26作品の応募があり、お気に入り投票数も125名(247票)と過去最多でした。

審査員特別賞は「浦ノ崎駅桜(内山 徹さん)」「神秘の世界(川原 武さん)」に授与されました。



「浦ノ崎駅桜」



「神秘の世界」

佐賀県聴覚障害者サポートセンター

〒840-0826 佐賀市白山二丁目 1-12 (佐賀商工ビル4階)
TEL: 0952-40-7700 FAX: 0952-40-7705
メールアドレス: info@saga-mimisapo.jp
ホームページアドレス: http://saga-mimisapo.jp/

<開館時間>

9:30 ~ 18:00

9:30 ~ 20:00(水曜)

<閉館日>

毎週月曜日、祝日

編集後記「有備無患 Kiyoo」